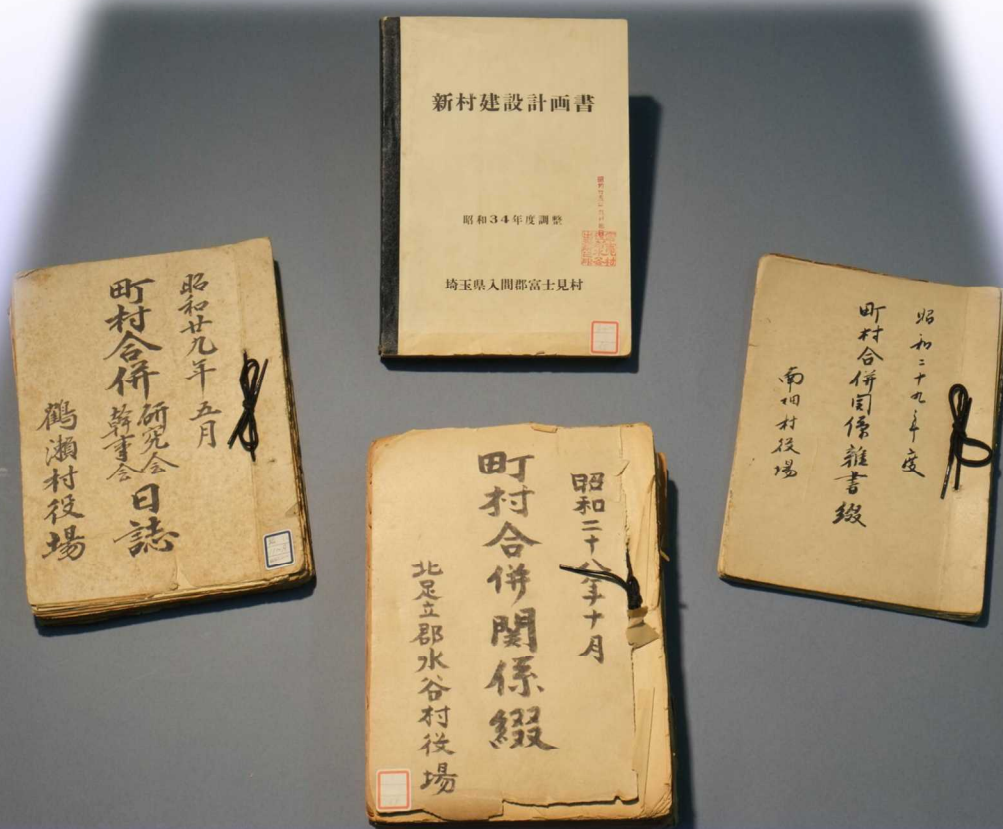


平成 28 年(2016) 秋季企画展図録

# 「富士見」還曆

— 3村合併から60年 —



2023.09

富士見市立難波田城資料館

# あいさつ

昭和31年(1956) 9月30日、鶴瀬・水谷・南畑の3つの村が合併して「富士見村」が誕生しました。

今年で60年、人間にたとえると還暦です。

この3つの村の組合せとなるには、戦国時代からの経緯があり、また、近年の合併協議にも影響しています。

富士見村が誕生した頃は、団地の進出や家電の普及など生活にも大きな変化があった時期でした。

この展示を通して、この地域の過去と未来に想いをめぐらせていただければ幸いです。

最後になりましたが、展示資料を提供していただきましたUR（都市再生機構）様、地元住民の皆様にご感謝を申し上げます。

平成28年(2016) 9月30日

富士見市立難波田城資料館長

## 図録発行にあたって

この図録で紹介する展示を開催してから7年が経ちました。この間、令和4年に富士見市市制50周年を迎え、その記念事業として『新版 富士見のあゆみ』が出版されました。そして、この10月には、入間東部地区二市二町の合併案が否決されてから20年となります。富士見市が現在の形になるまでの経過は、『あゆみ』にも断片的に紹介されていますが、戦国時代以来の地域のまとまりの流れをまとめた資料はありません。そこで展示記録を作成しました。今後の参考になれば幸いです。

令和5年(2023) 9月30日

富士見市立難波田城資料館長

### 例言

1. 本書は、平成28年秋季企画展「富士見」還暦の展示記録です。
2. 展示は、平成28年9月30日から29年1月9日まで開催しました。
3. 本書の解説文や図表は、原則として展示当時のままですが、気付いた誤りは修正しました。
4. 展示した実物資料の掲載用写真は撮影せず、展示状況の記録写真を掲載しました。
5. 展示と本書の企画・構成・編集は、当館学芸員早坂廣人が担当しました。

### 参考資料（展示資料以外）

富士見市史、富士見のあゆみ、上福岡市史、大井町史

三芳町史、志木市史、朝霞市史、新座市史、和光市史

所沢市史、川越市史、川越市・村合併聞き書き

埼玉県史、埼玉縣市町村合併史、埼玉県行政史

「都道府県市区町村 | データと雑学で遊ぼう!」(<http://uub.jp>)

ウィキペディア ほか



# 目次

あいさつ

例言・参考資料

8村から3村へ	4
戦国時代は5村	
江戸時代に8村に	
村々を組み合わせる	
3村の成立	
行政事務会支会	
3村から1村へ	9
戦中の合併	
幻の「新座市」と志紀町解体	
合併促進法 国と県の方針	
合併協議（旧新座郡）	
合併協議（入間東部）	
3村の基本姿勢	
新駅の幻影	
「富士見」誕生	18
合併協議（昭和31年）	
新村名は「富士見」	
新村建設計画	
延長戦	
新しい生活	22
団地の展開と村の新生活	
村から町へ 町から市へ	
その後のこと	26
広域行政	
平成の合併、たいらならず	
地図の広場	30

# 8村から3村へ

## 戦国時代は5村

戦国時代にまとめられた『小田原衆所領役帳』には富士見市域の郷(村)名が5つ登場します(貫高一貫文は石高で約2～4石に相当するとされています)。

上田左近<sup>さこん</sup>の領地は現市域の大部分を占めており、拠点と思われる多門氏館跡は市役所の近くにあります。この領地は河越合戦(1546)に敗れた難波田弾正から引き継いだと考えられます。

郷名	貫高	領主	城館跡(伝承含む)
勝瀬	43 貫文	勝瀬孫六	勝瀬館跡
鶴間	170 貫文	上田左近	多門氏館跡・殿山
水子	120 貫文		伝・水子古城
難波田	150 貫文		難波田城跡
大窪	55 貫文	大窪丹後他	伝・東大久保城跡



富士見にあった戦国時代の村と領主  
(おおよその範囲。棟岡は当時入間郡で難波田氏の伝統的領地と考えられる。大窪は岩付太田氏の古尾谷領の一部)

## 江戸時代に8村に

江戸時代初期まで<sup>たて</sup>館村(現志木市)の一部だった針ヶ谷は元禄年間に独立しました。難波田は上下に分かれ、荒川沿いに新田を開発し、さらに「南畑」に表記を変えました。こうして市域は8村になりました。

このうち鶴馬は複数の領主に分けられることが多く、上下それぞれに名主が置かれました。このため明治12年(1879)頃、村の分割が議論されました。

大久保村は、明治12年に郡制度が復活した時に、同じ入間郡内の同名村(現毛呂山町)と区別するため、東大久保に改名されました。

## 村々を組み合わせる

江戸時代のこの地域は、幕府直轄地、川越藩領、その他の藩領、旗本領などが入り交じっていました。また、領主を超えた治安維持のための「組合村」もありました。同じ領主、同じ組合の村々は、文書の回覧をするなどのつながりがありました。



明治の合併直前の市内8村  
(飛び地を整理交換後。「新田」は村の一種で、後に「村」は付かない)

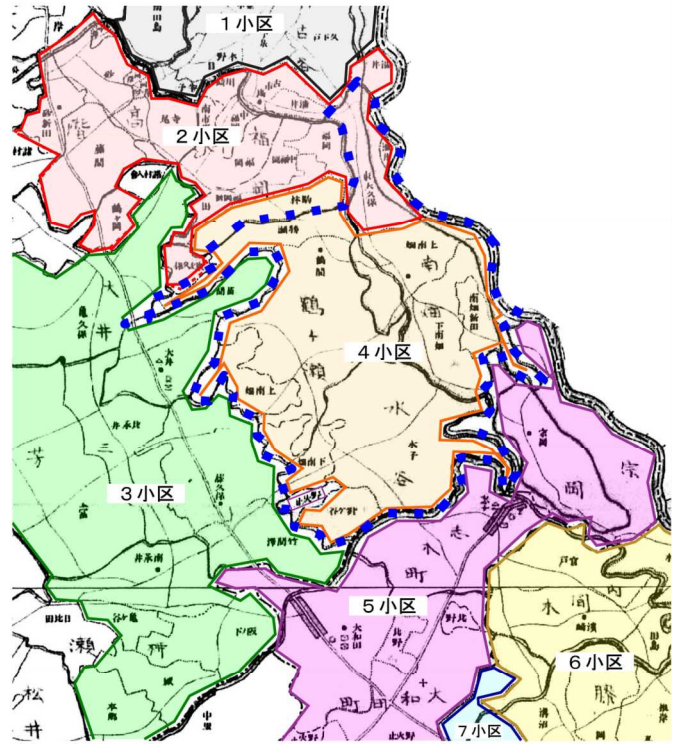
このほか同じ用水（野火止用水、伊佐沼用水など）を利用する村々のつながりなどもありました。

明治新政府は、廃藩置県の後、旧来の郡域を無視して大区小区制で村を編成しました。入間県第2大区は現川越市南部から和光市付近に広がっており、川越街道の宿場や新河岸川の河岸を核とする8つの小区に分けられました。そのうち「4小区」は富士見市域とおおむね重なります。

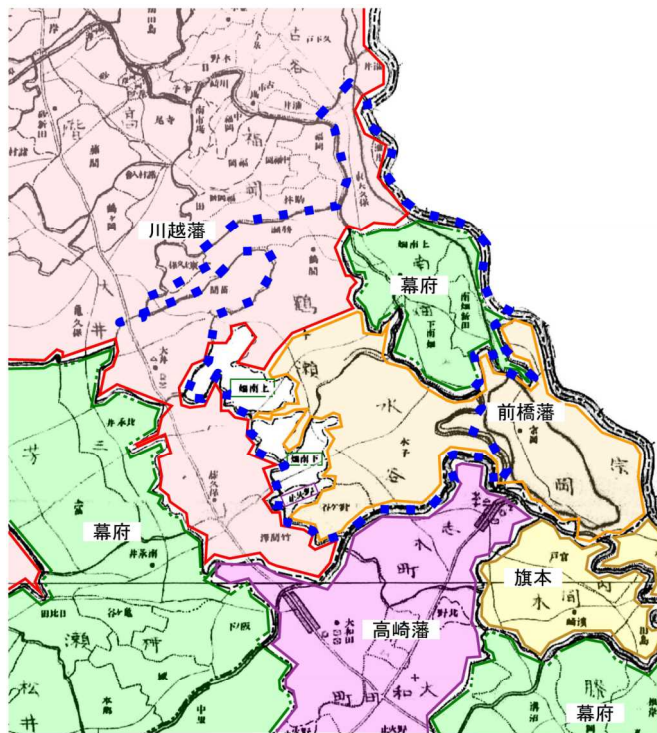
明治11年(1878)区制に代えて郡制を導入します。地理上の呼称になっていた「郡」に役場を置き、その下に村々が属しました(役場が共通の入間・高麗郡は計345町村)。

明治17年(1884)、連合戸長制(連合村)が導入されます。隣接する数村を合計5百戸以上になるように組合せ、役場を共通にしました。その組合せは、維新前の領地の境界も参考にされたように思えます。

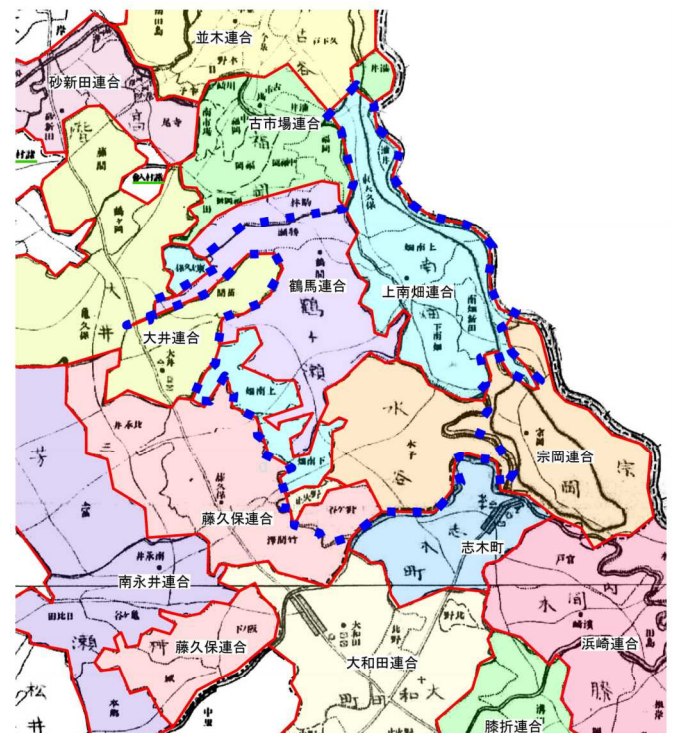
明治20年(1887)、埼玉県庁は、郡と村の再編案を立てました。この地域は、入間郡の東南部と新座郡を「南入間郡」とし、連合村の組合せを少し改めた合村案でした。しかし、この案は実施されませんでした。



大小区制(明治5=1872)における入間県第2大区  
1小区は古谷地区、6小区は和光市域、7小区は当時新座郡だった保谷・大泉地区まで広がる。第2大区全体は郡境を越えて構成されている。現在、埼玉県が「南西部」とよぶ範囲(6市1町)とほぼ重なる。



江戸時代末期(1867)の富士見市域(●●●)周辺の領主  
北は川越藩領が広がり、南は幕府直轄地・旗本領が入り混じる  
前橋藩と高崎藩は元川越藩主の家で、この地域に飛び地を持つ



連合戸長制(明治17=1884)における富士見市域周辺  
(下の地図は明治22年なので合併後の村名も入っている)

水子と宗岡の組合せは江戸時代と同じ。東大久保は伝統的に古谷地域に属していたが、江戸時代に南畑3村との関係が深まった。志木町は人口が多いので単独。藤久保連合は大和田に分断されている。飛び地は解消しておらず、また、村に帰属しない村落入会地も残っている。

品名	鶴馬	駒瀨	駒林	上南	下南	南新	水子	針谷	総計
現米上	二二〇五七	三三〇六	一六四一七	一六〇九	二二〇〇	一六〇九	一六〇九	一六〇九	一六〇九
同中	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
同下	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
大麥上	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
同下	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
小麥上	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
同下	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
大豆上	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
同下	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
小豆上	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
同下	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
稗	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
木	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
蜀黍	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七
蕎麥	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七	三三〇七

南第二大区四小区物産一目表 (1874年)  
 小区内各村の物産の統計報告  
 鶴馬を起点とした時計回り順

分村願  
 一、惣及別置三村古所四畝村等歩  
 一、戸數百七拾九戸  
 一、惣及別置三村古所四畝村等歩  
 一、人口千五百拾八人  
 及別置三村古所四畝村等歩  
 戸數百六拾九戸  
 人口九百拾八人  
 及別置三村古所四畝村等歩  
 戸數百九拾九戸  
 人口五百九拾八人  
 下湯村  
 当村往古ノ事跡ハ惣々詳知ス、カラスト 鶴馬慶  
 長ニ守智ヲ寛永十二年迄以越越基酒并

分村願 (1879年)

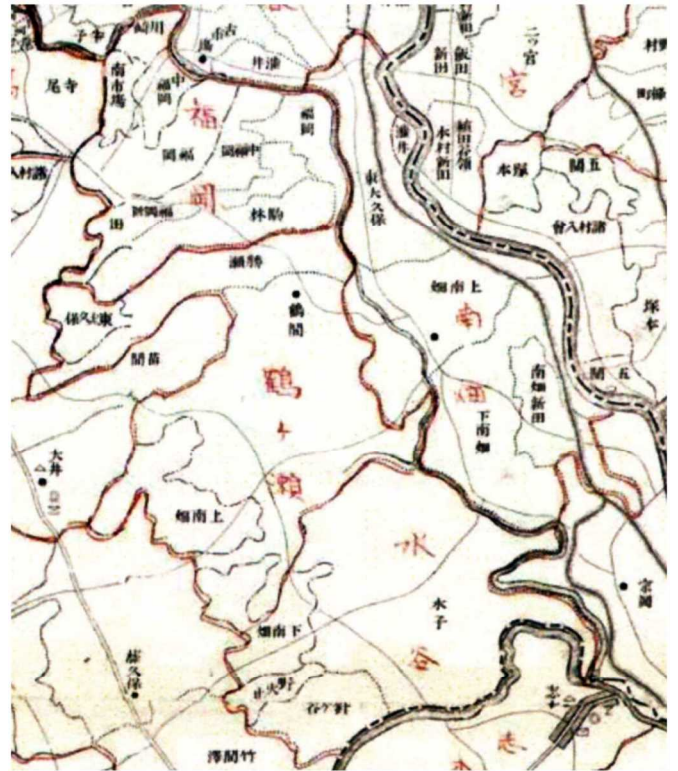


分村願附図 (1879年。南が上を向く)  
 現在の富士見台中前と鶴瀨小前を結ぶ線が境界

## 3村の成立

憲法を公布した明治22年(1889)、政府は「市制・町村制」を施行しました。自治権を増した制度の受け皿として、全国的に町村合併が進められました。埼玉県も合併の方針を定めました。連合村が順調な場合はそのまま、そうでない場合は3百戸～5百戸を目安に組み合わせるとしました。具体的な案は郡長が立てました。鶴馬連合から、戸数不足の福岡へ駒林を移し、残りの鶴馬と勝瀬を合わせました。村名は1字ずつ採り「鶴瀬」としました。交通に無理がある宗岡連合は解体し、水子だけでは戸数が不足するので藤久保連合から針ヶ谷を移しました。こちらも1字ずつ採って「水谷」としました。南畑連合はそのまま、名称も「南畑」となりました。東大久保からは「大畑」または「南畑久保」を要望しましたが認められませんでした。

また、江戸時代の名残である飛地とびち（開拓地は開拓した家が属する村に帰属した）も、それに接する村(大字)に編入しました。



明治22年(1889)合併直後の地図  
合併前の村境も描かれ、鶴瀬や水谷の西に、旧飛び地も表現されている。「鶴瀬」は誤記  
『埼玉縣市町村合併史』付図より

新村	旧村	戸数	人口	面積	編入した飛地 (ha)
鶴瀬	鶴馬	303	1856	523ha	上南畑71、大井15 南畑新田8、苗間5
	勝瀬	100	603	150ha	東大久保25
	計	403	2459	673ha	
水谷	水子	281	1613	384ha	下南畑42
	針ヶ谷	34	230	45ha	野火止3
	計	315	1843	428ha	
南畑	東大久保	124	722	142ha	渋井14
	上南畑	144	932	183ha	鶴馬0.8
	下南畑	209	1276	273ha	
	南畑新田	64	441	82ha	
計	541	3371	679ha		
総計		1259	7623	1781ha	

合併の前後比較表

## 行政事務会支会

合併が一段落しても、入間高麗郡役所の下には 61 の町村が属していました。事務連絡や情報交換のため明治 24 年(1891)に町村の「行政事務会」が設けられました。その下には近隣の 10 村前後からなる 7 つ(のちに 8 つ)の支会を設けました。支会の範囲は、現在の市や町の範囲と多くが重なっています。富士見市域の 3 村(鶴瀬・南畑・水谷)は、福岡村・大井村・三芳村・柳瀬村・宗岡村とともに第 2 支会に属していました。大正期には、所沢支会へ移った柳瀬村を除く、7 村が鶴瀬支会と呼ばれていました。

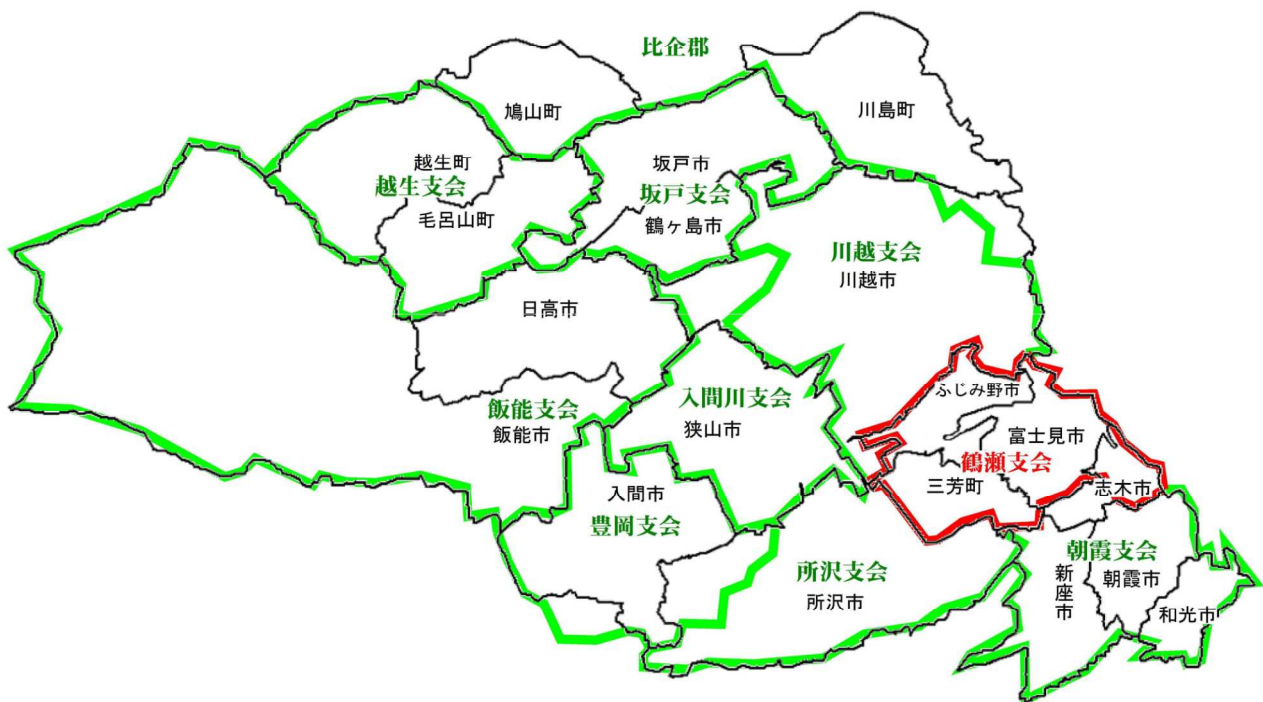
大正 15 年(1926)に郡役所が廃止になった後も、支

会は、町村長会の下部組織として続きました。

戦中に合併が進み、町村が少なくなると、東西 2 つの支会に再編されたようですが、戦後、ほぼ元どおりに戻りました(ただし所沢支会は、柳瀬村以外が合併して、所沢市になったため、支会がなくなり、柳瀬村は鶴瀬支会に戻りました)。

旧新座郡は北足立郡の一部となったあとも、7 町村(志木町、大和田町、片山村、朝霞町、内間木村、新倉村、白子村)が朝霞支会を構成していました(当初は保谷村も属していましたが、明治 40 年(1907)に東京府へ移管されました)。

同じ支会に属する村々は、連合運動会の開催など、多くの交流の機会がありました。



行政支会(大正11=1922 川越市制直前)と現在の市町村



# 3村から1村へ

## 戦中の合併

第二次世界大戦中も、政府により町村合併が奨励されました。この時期に入間郡・旧新座郡で成立した合併としては、昭和18年(1943)に成立した大和町(現和光市。2村)、所沢町(6町村)、飯能町(5町村)があります。大和町は明治の合併でも推薦された2村の組合せで、新村名は抽象的です。後2者は、地域の中心的な町と周囲の数村が対等合併した町です。合併前の中心的町名を採用しました。

富士見市域周辺では、志木町を中心とした合併が協議されました。北足立郡に属する志木町、内間木村と、入間郡に属する宗岡村、水谷村という、郡界をまたいだ組合せです。昭和15年(1940)から協議を始めましたが、すぐには結論が出ず、18年の暮れにようやく合意が成立しました。新町名については、志木町に一任したところ「志紀町」が選ばれました。一文字変えたといえ「しき」には変わりなく、他の村からは不満の声もありました。それでも破談はせず、昭和19年2月11日(紀元節)に対等合併して新たな町として出発しました。

この時期、東京近郊のこの地域には軍需工場などの軍事関連施設が置かれました。大和町、朝霞町、福岡村はそのような施設を中心に市街地の発達が始まっていました。

なお、県の案では福岡・大井・三芳・鶴瀬・南畑の5村の合併も考えられたようですが、詳細は不明です。

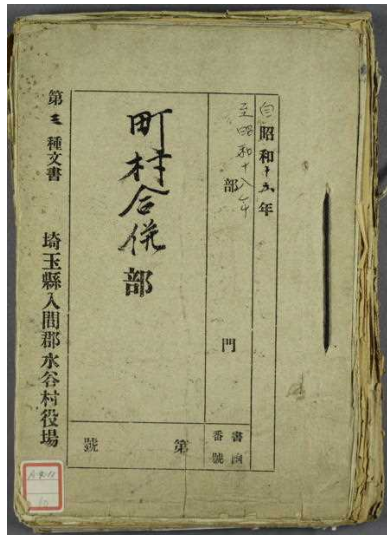


昭和19年(1944)の入間東部・新座地域  
大きい字は合併後、小さい字は合併前

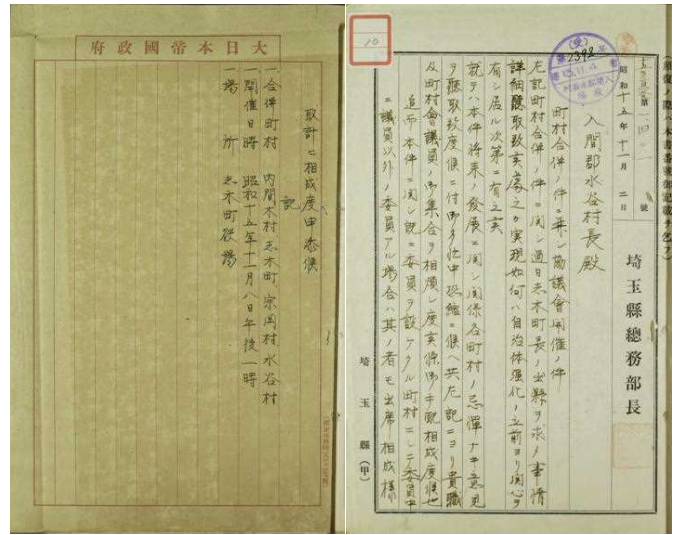


第2次世界大戦中の合併案

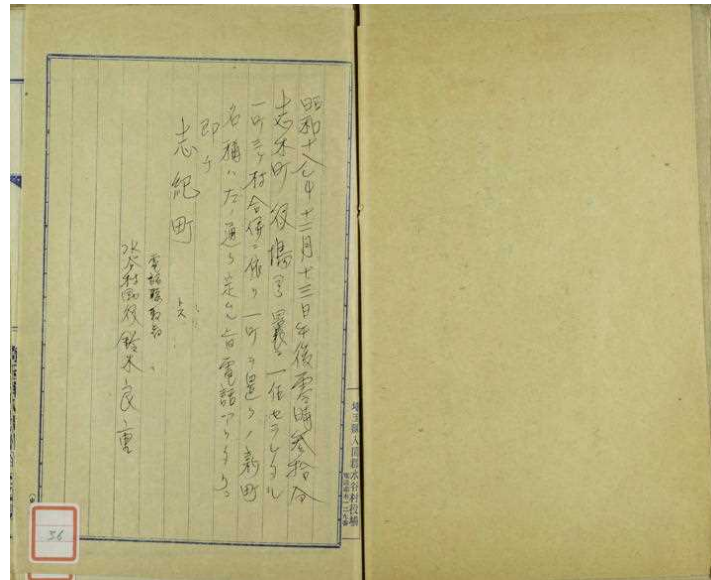
合併が成立した、志紀町(志木町・水谷村・宗岡村・内間木村)や大和町(白子村・新倉村)、所沢町(所沢町・松井村ほか)の他に鶴瀬など5ヶ村や、朝霞町+片山村も合併候補と表現されている。  
『埼玉県市町村合併史』付図より)



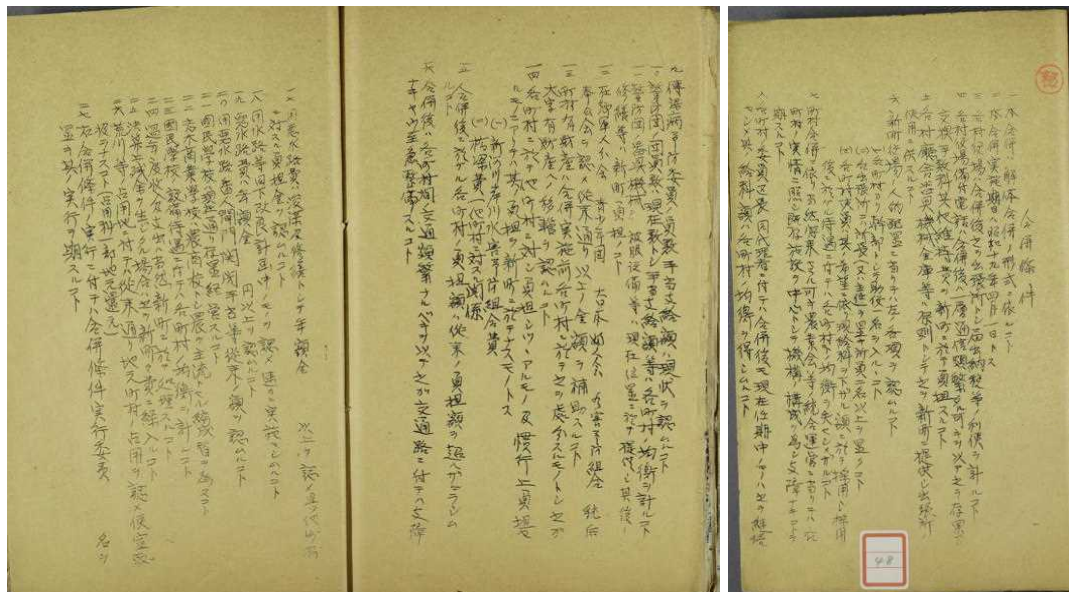
水谷村 町村合併綴 (1940 ~ 44年)



同綴、協議会開催について(1940.11.2)  
綴で一番古い書類。県が、合併の支援に乗り出した



同綴、新町名メモ(1943.12.13) 新町名を志木町に一任したところ「志紀町」と電話連絡が入った



同綴、合併条件(日付なし。マル秘) 合併条件の数々。多くは、各地区を公平に扱うことの確認

## 幻の「新座市」と志紀町解体

戦後に制定された新憲法の柱のひとつが、地方自治の強化でした。そのひとつに、自治体警察の創設がありました。市と人口5千人以上の町には、独立した警察署の設置が義務づけられました。旧新座郡域の4つの町(志紀、大和田、朝霞、大和)もその対象となりました。しかし、小さな町には重い負担です。いっそ片山村も含めた4町1村で合併して「新座市」となったらどうかという声が上がりました。

しかし、その協議に入ろうとした昭和22年(1947)秋、大きな問題が発生しました。志紀町のうち、旧村域である水谷、宗岡、内間木から、分離独立の声が起こったのです。

独立派の主張は、町政が市街地中心で村域をおろそかにしており、また、町の中学校に通う子供が都会的な悪い習慣に染まってしまう、などでした。

町を二分した議論は、町長辞任にまで発展し、分離解体派が新町長に選ばれました。これにより住民全体の意志が明らかになり、23年(1948)4月をもって、元の1町3村に戻りました。志紀町の寿命はわずか4年でした。以後、この地域では志紀町の失敗を悪しき先例とみなしました。

戦中に合併した市町村は、全国で分離の動きがあり、国も、特別措置としてそれを容易にしました。県内では川口市と鳩ヶ谷町などの例があります。

## 合併促進法 国と県の方針

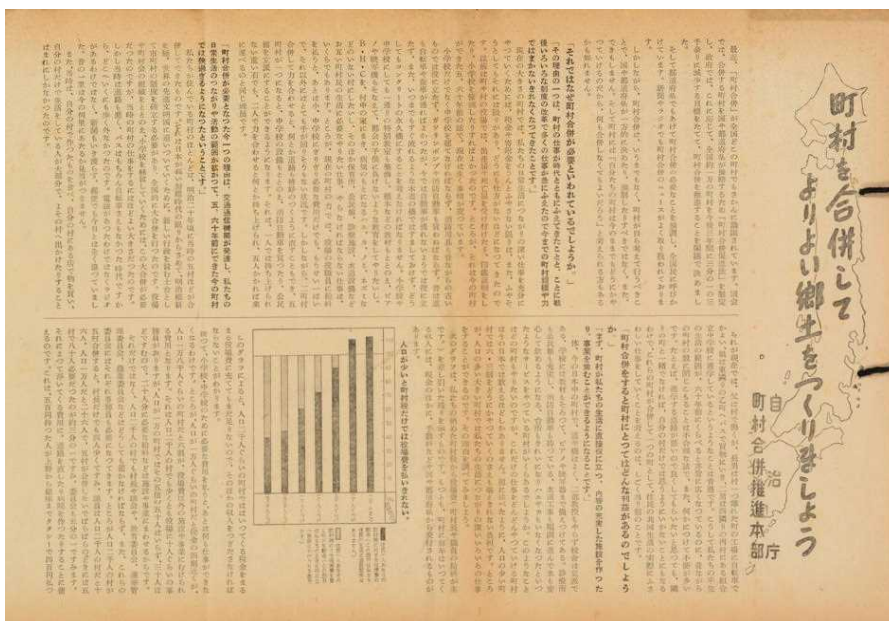
戦後の制度改革は、新制中学校の義務教育化など、小さな村にも大きな負担をもたらしました。昭和24年(1949)、戦後の混乱から抜けられない日本の財政を改善するため、アメリカのシャープが訪れ、様々な勧告を行いました。自治体に対しては合併を進めるべきと勧告しました。

政府は「地方行政調査委員会議」を設け検討しました。25年(1950)にまとめた提言で、中学校を適正規模(600人以上)で運営するためには人口が8千人以上必要だとし、これが合併規模の基準になりました。

28年(1953)、3年間限定の時限立法として「町村合併促進法」が制定され、10月1日に施行されました。

29年(1954)2月、埼玉県は、地方事務所が立てた案を基礎として合併町村の組合せ試案を示しました。小規模な町村をなくすことが法の趣旨であるため、町村同士の組合せが中心でしたが、市と町村の組合せもありました。

川越市付近の場合、地方事務所案は、市の周囲の村を2~3村ずつ合併させるものでしたが、川越市からの働きかけにより、川越市を中心に10村と合併する案になりました。このうち福岡村をのぞく9村は入間郡中央行政支会を構成していました。多少の異論はありましたが、この9村と川越市が対等合併し、新たな川越市になりました(30年4月)。



自治庁からの町村合併促進パンフレット(1953)

## 合併協議(旧新座郡)

志紀町が解散した後も、宗岡村と水谷村は引き続き北足立郡の所属とされ、旧新座郡地域である朝霞行政支会に属していました。この地区の合併の動向は、志紀町で発行されていた地域紙『埼玉タイムス』で追うことができます。

昭和 28 年(1953)12 月に早くも、7 町村の首長・議長の合同会議が開かれました。県試案では南北 2 ブロックに分けていましたが、各町村それぞれ別の思惑がありました。

大和田町は志木町との合併を望まず、片山村に合併を働きかけました。この合併が最初にまとまりました。新町名は、旧郡名をとり新座町(30 年 3 月。45 年

に市制)としました。大和田が抜けた北部ブロックは志紀町そのままの再現となるため、まとまりませんでした。内間木村は朝霞町に合併を申し込みました。朝霞町は大和町にも合併を働きかけましたが、大和町(45 年に和光市)は二輪車工場が出来て財政が豊かなため、合併に消極的で、朝霞町のみとならば、という態度でした。結局、朝霞町と内間木村が対等合併し朝霞町になりました(30 年 4 月。42 年に市制)。宗岡村は志木町との合併をのぞみ、2 町村だけでもよいとしました。合併が成立し、新町名は郡名により足立町となりました(30 年 5 月。45 年に志木市)。水谷村は大和田町が抜けてから消極的な態度となり、合併から取り残されました。

旧新座郡域は県試案とかけはなれた結果でした。



昭和29年(1954)現在の入間東部・新座地域  
太線は県試案による組合せ

## 合併協議(入間東部)

県試案では、鶴瀬支会6村のうち、福岡村のみ川越市との合併が提案され、他の5村が合併という案でした。市街地が発達しつつあった福岡は、町制を目指しており、川越ブロックの高階村や福原村との合併を試みましたが、その2村は早くに川越との合併方針を固めました。福岡は鶴瀬ブロックに加わることにします。29年4月下旬から5月上旬にかけて各村で村長・村議などから構成される「合併研究会」を設立し、5月10日にブロック全体の研究会を結成しました。直後から各村の姿勢があらわになります。

柳瀬村はすぐに、所沢市との合併を希望して鶴瀬ブロックから離脱します。鶴瀬村と南畑村はブロック全体の合併を希望しますが、福岡村と大井村は少数の村での合併を望みます。三芳村は合併相手を鶴瀬ブロックとするか所沢市とするか、村内の意見が割れていました。また、大井や三芳は南畑を含む合併に難色を示しました。水害常襲地域だという理由です(実際は、昭和16年を最後に大きな水害はない)。南畑は、それならばと、同じ水田地帯で元は入間郡の宗岡村や水谷村との合併も模索しました。

鶴瀬と南畑はお互いの合併に異論が無いため、2村での合併を基本にほかの村を引き込む努力をしました。しかし、他の村の態度がはっきりしないため、2村で合併することが決まりかけました。しかし、30

年3月に開かれた鶴瀬の村民大会で、2村のみの合併は効果が薄いから3村以上の合併を目指すことと決議しました。

福岡は、ブロックの大同合併に消極的でしたが、大井のみとの単独合併には前向きでした。

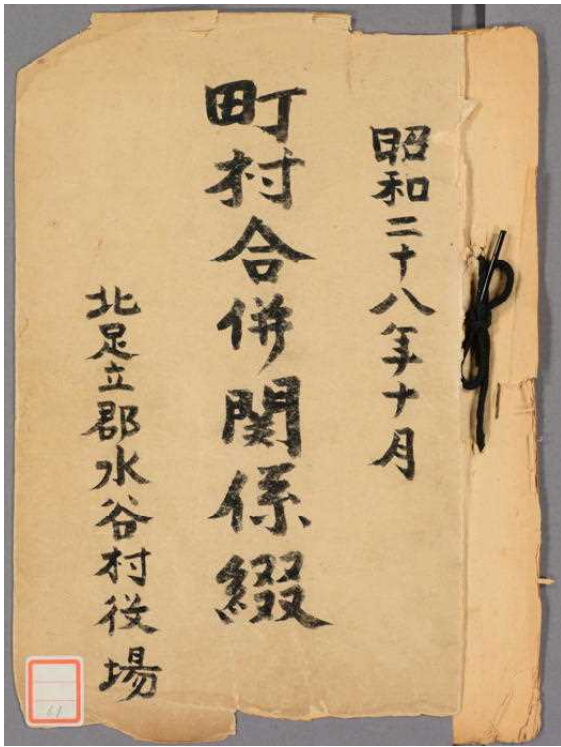
それに対して大井では、上福岡駅を利用する北部の地区は単独合併に積極的でしたが、鶴瀬と接する南部の地区は単独合併を拒みました。村内で何度会合を繰り返しても意見の対立は変わらず、30年3月に、とうとう研究会を解散してしまいました。

三芳では、上富地区が所沢との合併を希望し、鶴瀬ブロックを志向する他地区と対立していました。

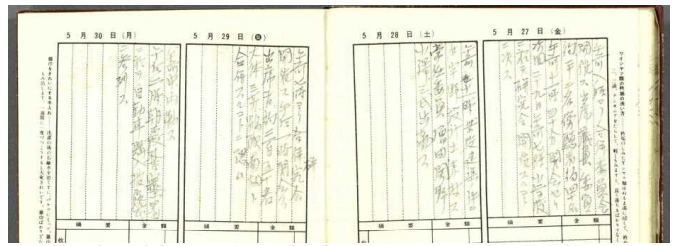
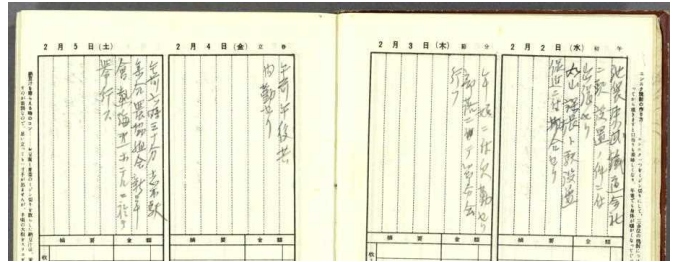
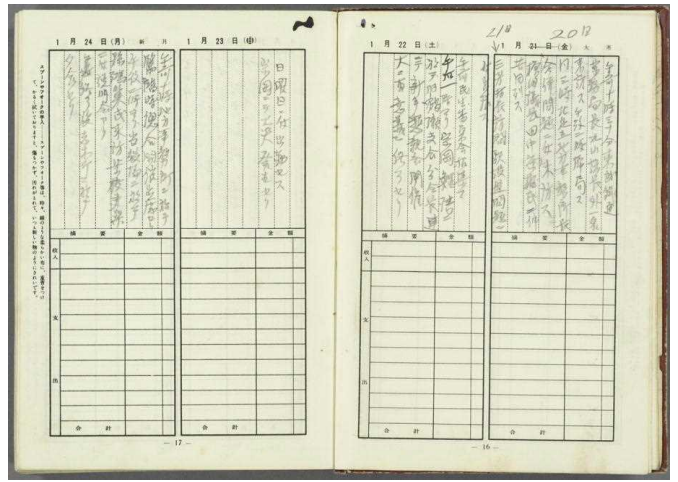
このような状況でしたが、このころ、旧新座郡地域や川越市の合併が次々決定し、村議の任期切れや地方事務所の解散が近付いてきました(県の地方事務所は戦時体制強化のため昭和17年におおむね郡単位に設置されたもので、町村合併により自治体の行政能力が高まったとして30年5月1日に廃止)。そこで30年4月13日に鶴瀬・大井・三芳・南畑の4村がブロック幹事会を開きました。そして4村で合併し、その協議のため村議の任期を3ヵ月延長することで合意しました。各村で了承が得られれば、これで決定でしたが、大井村で同意が得られませんでした。旧新座郡域と逆に、鶴瀬ブロックの合併協議は何も決まらずに、休止状態になってしまいました。



埼玉県による町村合併試案(1954年2月。水谷村合併綴より。赤線は水谷村役場が記入)



水谷村合併綴（戦後） 1954年までの書類が綴られている。55～56年の綴は保存されていない



水谷村長公務日誌（1955年～56年3月）

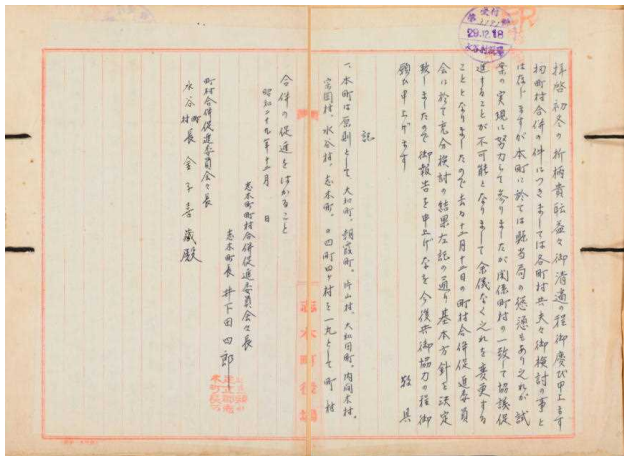
既製品の日記帳を用い、公務について簡潔に記録

55.1.22 旧鶴瀬支会懇親会。水谷・宗岡を加えた

「旧鶴瀬支会」という枠組で懇親会が開かれた

55.2.9 東武鉄道に新駅設置を要望

55.5.29 合併研究会。村民多数の出席のもと「北進」の方針を立てたが、反発も生じた



同綴 志木町からの合併の勧誘（1954年）

町村名	合併後の村別人口						合併後の村別人口	合併後の村別人口	合併後の村別人口	合併後の村別人口
	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年				
水谷	4303	1933	1934	200	283	3				
宗岡	4634	2288	1847	233	266	0				
志木	18613	10783	8358	403	1891	0				
南郷	9779	4901	4243	375	300	0				
鶴瀬	7325	3591	2868	372	473	1				
三芳	10358	5412	4282	293	371	0				

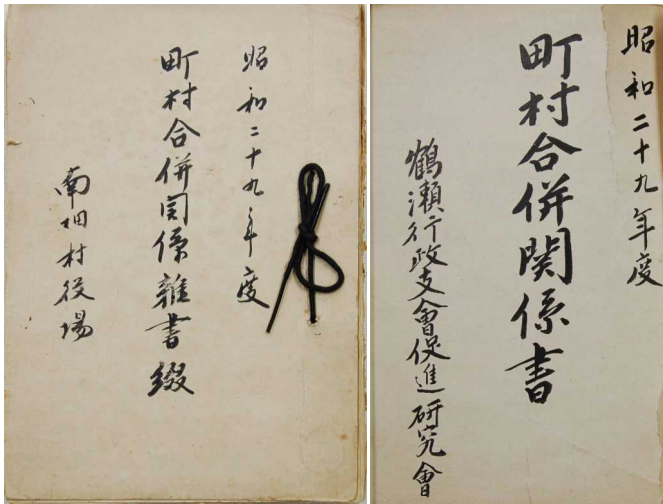
  

町村名	平均人口						合併後の村別人口	合併後の村別人口	合併後の村別人口	合併後の村別人口
	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年				
水谷	33840	24308	24	249	10911	2528				
宗岡	35326	24220	263	7804	2843					
志木	32957	26011	584	13870	5247					
南郷	35585	21712	217	9032	2356					
鶴瀬	33190	22550	250	8849	2819					
三芳	32780	22992	278	9011	2561					

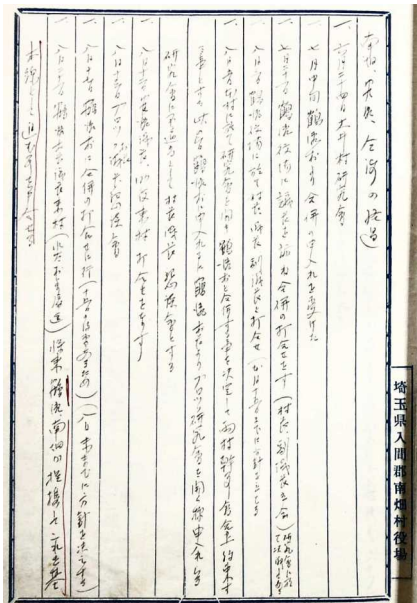
  

町村名	町村合併の経費	収入税						合併後の村別人口	合併後の村別人口	合併後の村別人口
		昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年			
水谷	19800	17000	13100	17000	8900	6900	4400	13		
宗岡	22800	21200	21200	19800	8100	7800	4300	14		
志木	24400	23600	22000	14800	11200	5500	24			
南郷	21200	20500	19800	17700	8900	6200	5500	18		
鶴瀬	22800	20500	21200	15800	11200	8100	5200	16		
三芳	24400	21500	21500	15800	11600	13100	3160	17		

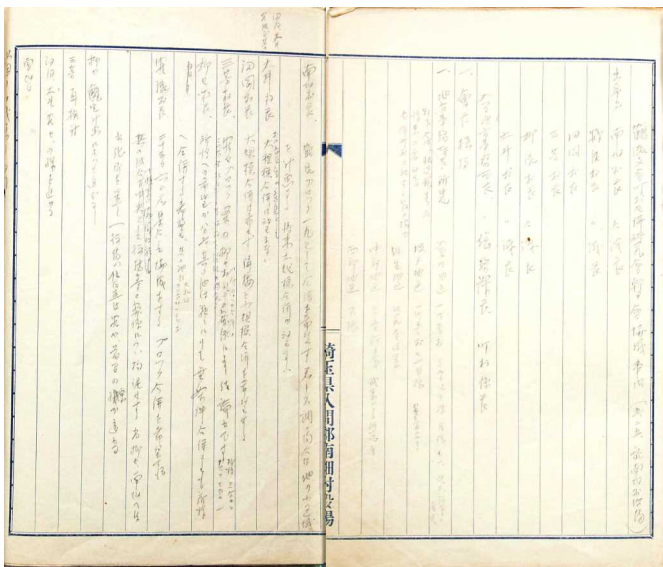
同綴 合併候補町村比較表（1954年）



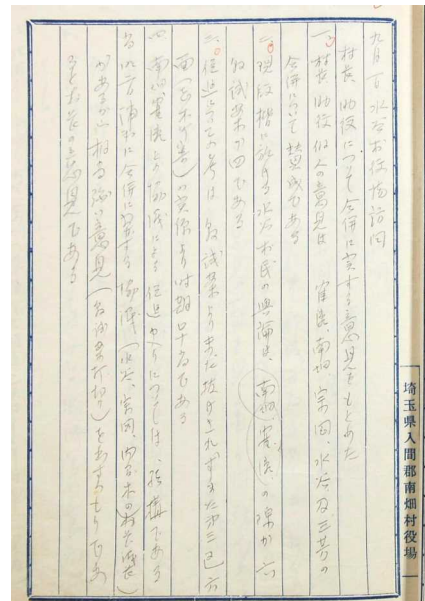
南畑村合併関係綴・鶴瀬行政支会合併関係綴（昭和29=1954年度）南畑村長は支会の会長だった。いつからか村の綴と支会の綴が合体された



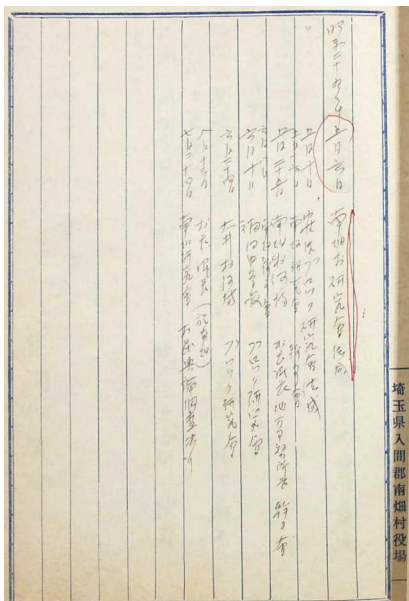
同綴 南畑鶴瀬合併の経過（1954.6~9）鶴瀬・南畑の協議が進んだ。2村を核に合併を進める方針



同綴 ブロック幹事会議事録（1954.5.25）第2回会議で、各村の基本姿勢が示された



同綴 水谷村役場訪問記録（1954.9.1）村民の意見により、水谷村と宗岡村の意向を確かめた

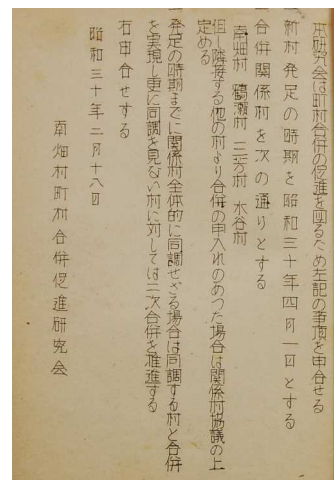


### 南畑村輿論調査の結果

昭和29年(1954)7月24日に実施  
合併希望相手を第8候補まで回答

合併相手	第1	%	第2	%
鶴瀬	289	53.6%	10	2.3%
水谷	211	39.1%	185	42.0%
宗岡	39	7.2%	246	55.8%
小計	539	100%	441	100%

※母数は不明。世帯数であれば約600  
埼玉タイムス 1954年8月22日号より



同綴 合併対象申合せ（1955.2.18）この組合せで29年度中に合併することを目指していた

同綴 南畑村合併経過（1954.5~8）ブロック研究会の経過と村内研究会の経過。輿論調査の実施も記録

### 3村の基本姿勢

鶴瀬村は、ブロックの中心に位置するので、どの隣村とも合併の可能性があります。たびたび組み合わせが変わりました。ブロック丸を理想としましたが、福岡が入ることはなさそうなので4村での合併も考えました。大井からは、福岡・大井・鶴瀬の3村合併を期待されました。主に鶴瀬駅を利用する三芳および南畑との合併が現実的と考えたようで、県の地方事務所も、ブロック丸が無理な場合の次善の案としていました。村内の地区による意見の違いはあまりありませんでした。

南畑村は、鶴瀬を含む組み合わせを基本としていま

したが、下南畑・南畑新田地区の強い要望により、水谷や宗岡にも声を掛けました。宗岡とは同じ水田地帯として水害時などに協力し合ってきました。水谷とは、地形が違う村の補完関係として、畑を出耕作したり、婚姻などでのつながりがありました。

水谷村は、志木と再合併を目指す「南進派」と、今度は鶴瀬と、という「北進派」に分かれ、意見の統一が難しいため、協議には消極的でした。協議が始まった頃の村長は宗岡村と一緒に大和田町を説得したりしましたが、病気により29年(1954)秋に辞任しました。次の村長は、志紀町分離の際の中心的人物で「北進派」とみなされていました。村の中での意見対立が次第に表面化していきました。



昭和31年(1956)10月現在の入間東部・新座地域  
大きい字が合併した市町村



## 新駅の幻影

鉄道が普及してから、地域の編成において、駅はきわめて重要な要素となりました。大正3年(1914)に開業した東上鉄道(現東武東上線)は、当初計画では川越街道沿いに通り、大和田、竹間沢、大井に駅が置かれる予定でした。しかし、河岸場関係者の働きかけで、河岸場のある町村を通るようになり、志木、鶴瀬、福岡に駅が開設されました。ただし、河岸の近くではなく、隣村との境界に近い人家が少ない土地を通りました。昭和の合併は、新座町をのぞき、駅がある町村が中核になりました(新倉駅=現和光市駅は昭和9年(1934)開設)。

水谷村は、昭和24年(1949)に新駅の設置運動を始

めましたが、実現しそうになっては繰り延べられることが繰り返されました。村内が合併をめぐって2派に分かれたとき「北進派」は、志木と一緒にしたら志木駅を使わせるために新駅運動が疎かになる、と宣伝しました。鶴瀬・南畑との協議では新駅設置への取り組みを条件としました。

大井村も、苗間に駅を新設することを求めています。29年5月の鶴瀬ブロックの協議では、大同合併後の役場を苗間新駅の近くに置こう、という提案も出たそうです。

結局、水谷新駅(みずほ台駅)の設置は昭和52年(1977)となり、苗間ではなく勝瀬の地に作られた「ふじみ野駅」が平成5年(1993)に開くこととなります。



(平成26年巡回展図録『鶴瀬駅の100年』より)

# 「富士見」誕生

## 合併協議(昭和31年)

水谷村は昭和23年に復活したため、31年に村議選がありました。5月に実施された選挙で、得票数上位は南進派が占めましたが、議席数では北進派が8名、南進派7名、中立1名でした(埼玉タイムスの分析)。助役の選任などで両派の対立が続きました。

鶴瀬ブロックは8月下旬に再協議が本格化しました。再度、5村の大同合併を目指して交渉しました。しかし、福岡村が合併後の庁舎を上福岡駅の近くに設置するよう条件をつけました。9月5日、ブロックの合併研究会で協議がまとまらず、研究会を解散しました。同日、鶴瀬ブロックの合意を予想したのか、水谷村は足立町に合併を打診し、歓迎されました。

9月7日、水谷村の合併促進委員会が開かれ、突如、鶴瀬・三芳・南畑との合併を目指す動議が提出され、可決されました。早速各村に申し入れましたが、反対派も村の総意ではないという声明を送りました。

鶴瀬村は12日に合併研究会を開き、南畑・水谷との合併案を可決しました。新村名も検討しました。

水谷村では13日に南進派が村民大会を開き、住民投票するべきだと決議しました。鶴瀬と南畑から、また県からも住民の意思を確認すべきだと進言され、19日に住民投票を行うことが決まりました。

南進派は、足立町との深いつながりを説き、北進派は「農村は農村と」をスローガンとしました。鶴瀬村、南畑村からも応援団が来ました。投票前夜のルポを埼玉タイムスが「南北戦争 従軍記」と題したほどの熱気が村を包んでいました。同日、鶴瀬村でも合併研究会がありました。17日に三芳から合併の申し込みがあったのです。協議の結果、南畑・水谷との協議は住民投票の結果を待ち、三芳との合併は進めることになりました。ただちに三芳村に回答しました。

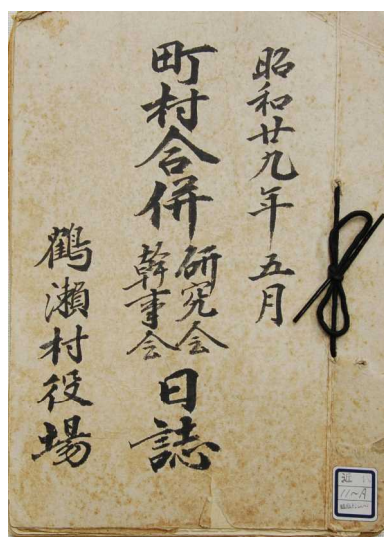
翌19日、水谷村の住民投票は、97%という驚異的な投票率でした。即日開票の結果、鶴瀬・南畑案が6割の支持を得て、村の総意は決しました。

20日、鶴瀬村は「大同合併をすることを前提として、三芳村、鶴瀬村の二ヶ村は合併する」という誓約書案を用意し、三芳に承諾を求めました。鶴瀬側は、最終的に4~5村の合併を目指していたようです。

しかし21日夜になっても三芳村は村内委員会で結論が出せませんでした。鶴瀬は三芳をあきらめ、3村での協議を選択します。

22日、3村の合同会議で合併大綱を定め、23日に各村議会で可決しました。24日に新村建設計画を決定。同日付で県に村の廃置分合を申請しました。

「町村合併促進法」の合併期限最終日である9月30日、ついに新村が誕生しました。



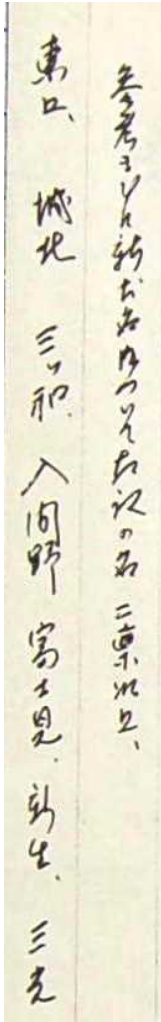
年月日	件名	出席・欠席	備考
五月六日	研究会創立会を招き、幹事五選任	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月七日	研究会第二次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月八日	研究会第三次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月九日	研究会第四次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十日	研究会第五次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十一日	研究会第六次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十二日	研究会第七次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十三日	研究会第八次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十四日	研究会第九次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十五日	研究会第十次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十六日	研究会第十一次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十七日	研究会第十二次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十八日	研究会第十三次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月十九日	研究会第十四次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十日	研究会第十五次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十一日	研究会第十六次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十二日	研究会第十七次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十三日	研究会第十八次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十四日	研究会第十九次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十五日	研究会第二十次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十六日	研究会第二十一次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十七日	研究会第二十二次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十八日	研究会第二十三次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月二十九日	研究会第二十四次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	
五月三十日	研究会第二十五次会合	出席: 鶴瀬、南畑、水谷、三芳、福岡	

鶴瀬村町村合併綴 (1954 ~ 56年) 村内研究会結成から合併成立直後までの文書が残されている  
同綴 町村合併促進日誌 ブロック、村、地区単位で多くの会議が開かれた。



## 新村名は「富士見」

新村の名称は「富士見村」になりました。その決定の過程を直接記録した文書は見つかりません。『埼玉縣市町村合併史』によると「関係三村合併幹事会(各村代表八名ずつをもつて構成)において投票の結果、富士見村と命名された」といいます。これは 22 日の会議のことです。鶴瀬村の記録では、12 日の村内研究会で新村名を検討し、委員 2 名以上の支持があった案として「東上、城北、三ツ和、入間野、富士見、新生、三光」が記録されています。南畑村の動向は不明ですが、水谷村は新村名を考えるゆとりがありませんでした。鶴瀬案を基礎に協議したと推測できます。「東上」は足立町命名の際も有力候補でした。「城北」は川越城を無視した感じですが。この地域で「野」は台地上の畑作地帯を指し南畑になじみません。印象がよく、地域色もあり、富士見橋がある水谷村も納得しやすい名称として「富士見」が選ばれたのではないのでしょうか。富士見村設置申請書には「関係三ヶ村の何れの村からもその雪峰が仰がれる地勢にあるので…この名山を理想とし象徴として明朗な新村を建設していくため」とあります。



富士見村設置申請書 (1956.9.24)

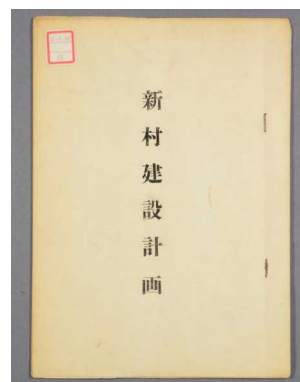
当時「富士見」を名乗る自治体は全国で 3 箇所でした。群馬県富士見村(現前橋市)、山梨県富士見村(現笛吹市)、長野県富士見町です。どこにでもありそうで意外に少ない名称でした。

## 新村建設計画

富士見村の新村建設計画が 2 つ残されています。

ひとつは『新村建設計画』と題し、本文は 10 ページです。これは合併の手続きのため急ごしらえされたもので、国が用意した雛形に沿っています。具体的な記述は多くありません。庁舎については、鶴瀬に仮庁舎、南畑と水谷に支所を置き、将来適当な場所に本庁舎を建築するとしました。小学校は現在のまま、中学校は必要に応じて将来統合するとしました。このほか将来スクールバスを兼ねた村内循環バスを営むとあることが目を引きます。

国と県は、合併後の村が本格的な計画を立てるための補助金を出しました。富士見村は 34 年にそれを受け『新村建設計画書』を作成しました。本文だけで 268 ページある厚い冊子です。3 編に分かれています。基礎調査編は、当時の村勢の詳細な記録です。産物ではゴボウやホウキ草、座敷蓐が目にとまります。基本計画編では「首都近郊の農村であるが…田園住宅都市として変ぼうしつつある」とし、農業の合理化に重点を置き、工場誘致などを促すことを産業基本方針としました。10 年後(昭和 44 年)の人口予測は約 1 万 5 千人でした。農家副業として製茶や藁加工品の生産拡大を考えました。また、統合中学校(現富士見台中)の建設は急務だとしています。実施計画編では 5 力年の具体的な計画をまとめました。



新村建設計画(1956年)と新村建設計画書(1959年)

## 延長戦

国は昭和 31 年(1956)6月に「新市町村建設促進法」を制定していました。これは合併した市町村の建設を支援するとともに、規模が不適正な未合併町村に対しては合併を勧告するというものでした。入間東部地区で未合併の福岡、大井、三芳も、県の働きかけで 31 年暮に協議が再開しました。協議の中では、合併の相手として富士見村を考える案もありました。しかし、各村の姿勢は変わらず堂々巡りでした。32 年 3 月には、福岡・大井・三芳の 3 村で合併するよう、県から勧告を受けました。

これに対し、三芳村議会は、上富地区を所沢市に編入して他の地区は富士見村と合併する案を、同年 6 月に可決しました。富士見村議会も受入を議決しました。しかし、三芳村内には分村に反対する意見も根強くありました。同年 12 月に、所沢市・富士見村・三芳村で特別促進委員会を置くことになりましたが、協議にすら入れませんでした。

34 年 3 月、福岡村の人口が適正規模に達したとして、県の勧告が大井と三芳の 2 村合併に変更されました。同年 4 月、三芳村は分村案を取り消しました。同年 8 月、大井村が福岡、三芳にまた 3 村合併を呼びかけましたが三芳は拒みませんでした。35 年 5 月、県は合併推進から手を引き、同年 11 月、福岡は町制を施行しました。入間東部地区の合併協議は幕引きとなり「富士見村」の範囲も確定しました。



合併直後の村議会議員集合写真（1956 年）  
背景は富士見村役場（旧鶴瀬村役場）



富士見町役場（1964 年）



旧南畑村役場（1964 年。当時は南畑出張所）  
写真右にある南畑村記念碑は、当園内に移設された



旧水谷村役場（1964 年。当時は水谷出張所）

# 新しい生活

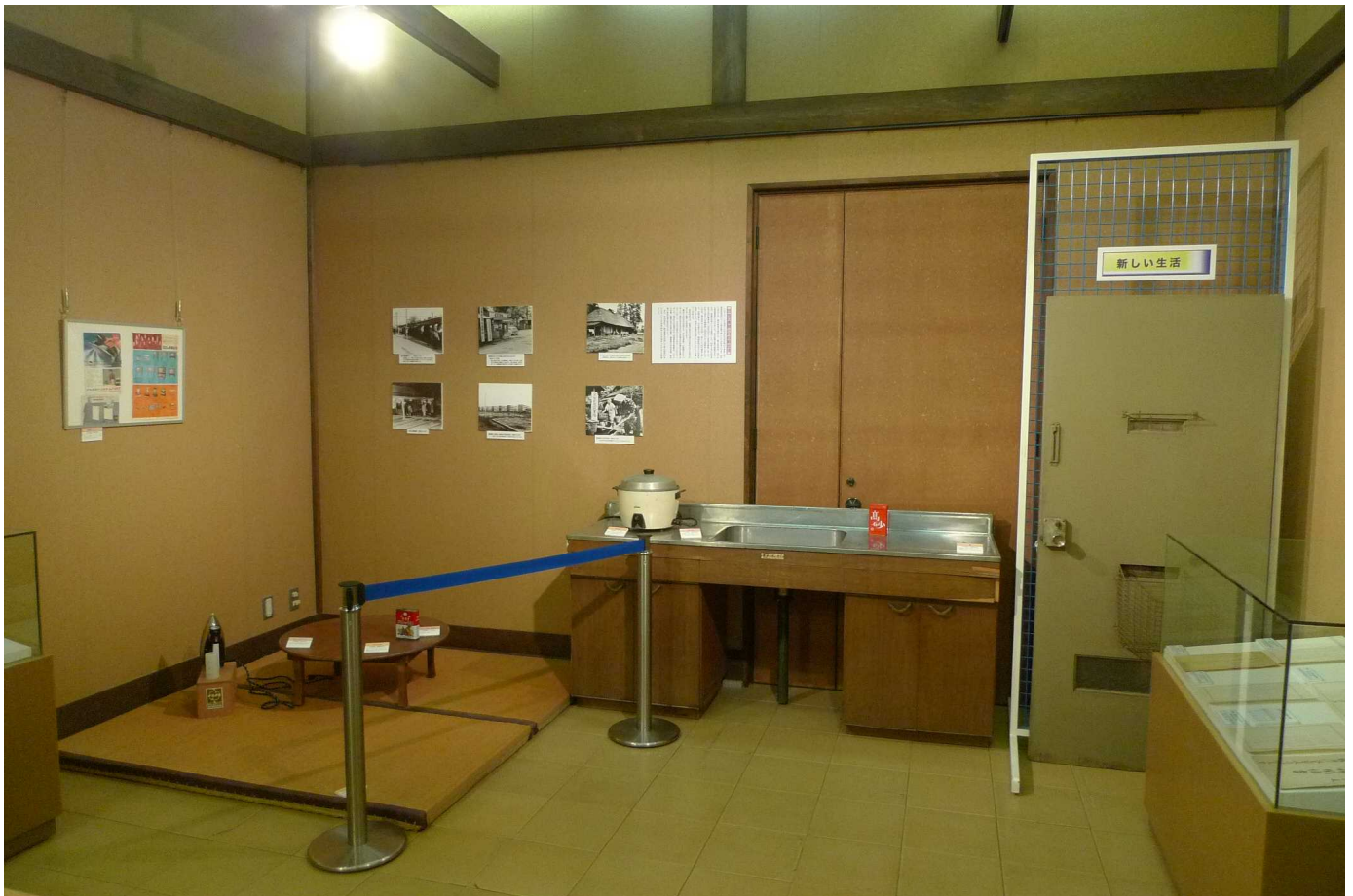
## 団地の展開と村の新生活

このころ、この地域には宅地化の波が寄せてきました。高度成長期に入った東京圏で働く人々の住まいです。32年(1957)2月、東武鉄道が造成した「富士見団地」38戸の入居者募集が行われました。住宅金融公庫の融資付きでしたが、高級住宅地といえる価格でした。同年9月には日本住宅公団が鶴瀬(第一)団地228戸の入居者を募集しました。37年(1962)には鶴瀬第二団地1057戸が入居開始しました。この年、富士見村の人口は4280人、率にして35%増加しました。民間企業も、水谷東や寺下、鶴瀬駅周辺などに宅地を造成しました。地域の性格は急速にベッドタウンに転換していきました。

昭和30年代は、家電の普及や洋服の日常化など生活文化が大きく転換した時期でもあります。

農村では20年代末期から「新生活運動」が展開されていました。家庭生活の民主化や生活様式の合理化が目標とされていました。水谷村は県内のモデル村の一つとされていました。具体的な改善項目は、冠婚葬祭の簡略化、カマドの改善、栄養がある料理の講習、農繁期の共同炊事、家計簿や家族計画の普及などでした。

また、南畑地区で、観光農業を目指して梨の栽培(31年から)やイチゴの栽培(34年から)が始まったのもこの時期でした。



団地の生活イメージ展示  
扉・流し台・畳は、鶴瀬団地解体時に収集したもの



干し物を上げた農家の庭先（1955年頃）  
南畑地区。当時はかやぶき屋根が普通だった



鶴瀬団地（1964年頃）



農繁期の共同炊事（1956年）  
水谷村の生活改善運動のひとつとして行われていた



鶴瀬駅で通勤列車に乗る人々（1964年）



鶴瀬駅前（1960年）



駅から帰宅する人々（1964年）



富士ビル(富士見商工センター)建設予定地（1964年）



スチームアイロン 市内関沢の方が1964年に池袋のデパートで購入したもの



家電と石油ストーブのチラシ アイロンの箱に入っていた。これらは1960年代に普及した。



## 村から町へ 町から市へ

合併後の村役場（旧鶴瀬村役場）は現在の鶴瀬公民館敷地にありました。合併後に建設した文化会館（のちに図書館）は鶴瀬小学校の北隣にありました。

合併後の村議選挙は、旧村を範囲とする選挙区に定数を割り振って実施されました（40年町議選まで）。

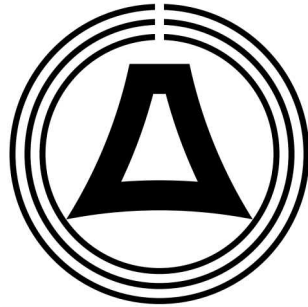
中学校は順次統合されて「富士見台中学校」になりました。当初は本校を旧鶴瀬中に置き、旧水谷中と旧南畑中を分校としました。36年(1961)に、村の地理的中心に近い「殿山」に建てられた新校舎に統合しました。

人口の増加や鶴瀬駅付近の発展により、39年(1964)に町制を施行しました。この年、鶴瀬駅前に「富士ビル」が建設されました。

41年(1966)に町章（現市章）を制定しましたが、その3本線は旧3村を象徴しています。

人口増加はさらに加速し、町制のわずか8年後の47年（1972）に市制を施行しました。翌年、現在地に市役所新庁舎を建設しました。その位置は、市域を円で囲んだ場合の中心にあたります。現在の人口は約11万人で、合併時の十倍を超えました。

いまでも、旧3村の名残は残っています。たとえば公民館は、おおむね旧村単位で設置されています。郵便番号の下2桁も、南畑地区は01から、水谷地区は11から、鶴瀬地区は21から番号が振られています。



富士見文化会館（1964年）

1960年開館。社会教育・文化活動の拠点だった



合併15周年記念式典（1971年）

市制施行前は9月30日を村(町)の記念日としていた



市制施行記念式典（1972年）



市制記念芸能大会商工まつり（1972年）



完成間近の新庁舎（1973年）

## その後のこと

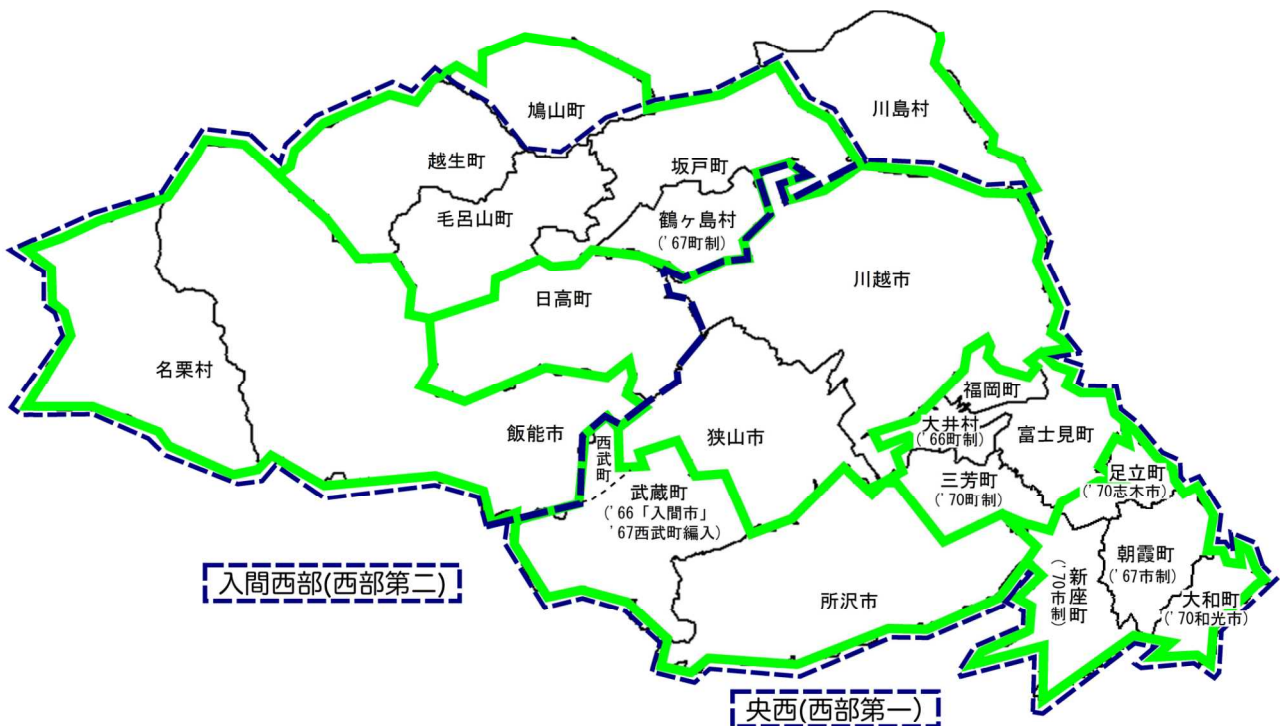
### 広域行政

入間郡域は昭和28年(1953)に2市6町40村でしたが、33年までの合併で4市6町6村になりました。市町村数で48→16と3分の1です。しかし、入間東部地区は4村が集中し、合併しても村だったのは富士見だけと、特異な地域でした。

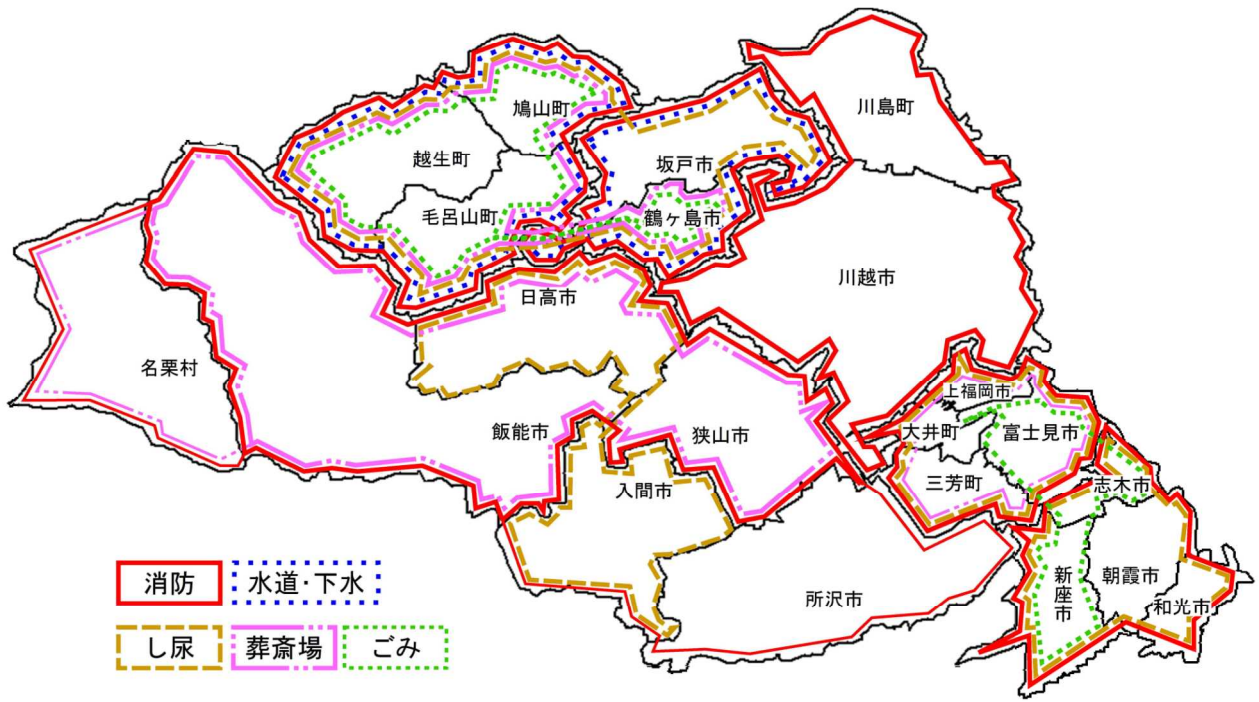
昭和38年(1963)、県は県下94市町村を22ブロックに分け、ブロック内の市町村で一部事務組合を設けて都市施設や消防の共同処理を行うよう提案しました。入間東部地区4町村は一つのブロックでした。この4町村で40年、し尿処理のため入間東部地区衛生組合を設立しました。また、45年には入間東部地区消防組合を設立しました。一方、39年に志木・新座

・富士見の3町村でゴミ処理を行う志木地区衛生組合を設けました。県ブロックと違う組合せですが29年の県合併試案とは似た範囲です。

昭和44年(1969)、県は県内を9地区に編成した「広域市町村グループ構想」を打ち出しました。その範囲はおおむね旧郡域と重なりますが、旧入間郡・新座郡地域は、川越—入間よりも東の12市町のブロックと、飯能—坂戸より西の7市町村のブロックに分けられました。これは水系の違いでもあり、東京との距離の違いでもありました。富士見を含む東側のブロックは、協議会を作り、広域計画をまとめるなどしましたが、範囲が広すぎて具体的な成果は乏しく、平成24年(2012)に解散しました。



県ブロック案(昭和38=1963)と広域行政圏(昭和45=1970)



一部事務組合(市町村は平成12=2000時点)  
細線は平成12年以降の拡大・事業追加

2016現在	和光市	朝霞市	志木市	新座市	富士見市	ふじみ野市	三芳町	所沢市	入間市	狭山市	飯能市	日高市	川越市	川島町	坂戸市	鶴ヶ島市	毛呂山町	越生町	鳩山町			
行政	1890	*			第二			第三	第四	第五	秩父郡	第五	第一	比企郡	第六	第七	比企郡	比企郡	比企郡			
支会	1922	朝霞(北足立郡)			鶴瀬			所沢	豊岡	入間川	飯能	川越	比企郡	坂戸	比企郡	比企郡	比企郡	比企郡	比企郡			
支会	1944	朝霞(北足立郡)			東部			所沢市	豊岡	入間川	飯能	東部+川越市	比企郡	東部	西部	比企郡	比企郡	比企郡	比企郡			
支会	1953	朝霞(北足立郡)			鶴瀬			所沢市	豊岡	入間川	飯能	中央+川越市	比企郡	坂戸	比企郡	比企郡	比企郡	比企郡	比企郡			
昭和合併	数字は西暦	43.4 白子村 +新倉村 =大和町 =朝霞町	44-48志 紀町(内 間木) 55.4 朝霞町 +宗岡村 =足立町	44-48志 紀町 55.5 大和田町 +片山村 =新座町	44-48志 紀町(水谷) 56.9 鶴瀬村 +南畑村 +水谷村 =富士見村	福岡村 合併せず	大井村 合併せず	三芳村 合併せず	43.4 所沢町+5村 =所沢市 50 所沢市 55.4 編入柳瀬村 、三ヶ島村	54.4 東金子村+旧元 加治村=西武町 56.9 豊岡町+3村+旧 東金子村=武蔵町 67.4 入間市(旧武蔵 町)に西武町を編入	54.7 入間川 町+5村=狭山市	43.4 飯能町+4 村=飯能町 54.1 市制 54.4 旧元加治 村分離 56.9 編入 高萩村	名栗村 合併 せず	55.2 高麗川村 +高麗村 =日高町 56.9 編入 高萩村	39.12 編入 田面沢村 43.11 2村 →大東村 55.4 川越市 +9村=川越市	54.11 坂戸町+川 島村	54.7 坂戸町+4村 =坂戸町	鶴ヶ島村 合併せず	39.4 毛呂村+ 山根村 =毛呂山町 55.4 今宿村+ 梅園村 =越生町 55.4 川角村 =鳩山町	55.2 今宿村+ 亀井村 =鳩山町	55.4 今宿村+ 亀井村 =鳩山町	
ブロック	案'63	朝霞・大和・足立・新座			福岡・富士見・大井・三芳			所沢・西武・武蔵	川越・狭山・日高	飯能・名栗	川越・狭山・日高	東松山 ほか	坂戸・鶴ヶ島・毛呂山・越生・鳩山									
広域行政	圏'70	中央西→'82西部第一 '12解散																入間西部→'82西部第二 '10解散	中央西→西一 '12解散	比企	入間西部→'82西部第二 '10解散	比企
し尿処理	'61	朝霞地区一部事務組合			'65 入間東部地区衛生組合			'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合	'65 入間西部 衛生組合		
ごみ処理		'64 志木地区衛生組合																		'71 埼玉西部環境保全組合		
上水道																				'68 坂戸・鶴ヶ島 水道企業団		
下水道処理																				'68 坂戸・鶴ヶ島 下水道組合	'80 毛呂山・越生・ 鳩山公共下水道組合	
消防	'98	朝霞地区一部事務組合			'70 入間東部地区消防組合						'96 埼玉西部広域事務組合		'73 川越地区 消防組合		'72 坂戸・鶴ヶ島 消防組合					'76 西入間広域 消防組合	'82 広域静菟組合	
葬・斎場					'06 衛生組合に事業追加						'13 埼玉西部消防組合											
警察署		朝霞署		新座署	東入間署			所沢署	狭山署		飯能署		川越署 (東松山)								西入間署	
県構想	基本案'03	朝霞・和光・志木・新座			法定協議会設置済み			所沢・入間・狭山	飯能・名栗・日高	川越・川島	坂戸・鶴ヶ島	毛呂山・越生・鳩山										

1987	和光市	朝霞市	志木市	新座市	富士見市	上福岡市	大井町	三芳町	所沢市	入間市	狭山市	飯能市	名栗村	日高市	川越市	川島町	坂戸市	鶴ヶ島市	毛呂山町	越生町	鳩山町	
まちづくり協議会・平成合併	1987-90	1990 埼玉県南西部4市 まちづくり協議会 (クローバープラン)			1990 埼玉県首都近郊(入間 東部)都市づくり協議会 (カルテットプラン)			1988 埼玉県西部地域まちづくり協議会 (ダイヤプラン)			1987 川越都市圏まちづくり協議会 (レインボープラン)											
	2000	合併協議会			合併協議会			合併協議会			合併協議会											
	2001	投票、解散			投票、解散			投票、解散			投票、解散											
	2002	合併協議会			合併協議会			合併協議会			合併協議会											
	2003	解散			合併協議会			合併協議会			合併協議会											
	2004	解散			合併協議会			合併協議会			合併協議会											
	2005	解散			合併協議会			合併協議会			合併協議会											
	2008	協議会解散			2005年度 協議会解散			協議会解散			協議会解散											
県区	2016	和光市朝霞市志木市新座市			富士見市			ふじみ野市	三芳町	所沢市	入間市	狭山市	飯能市	名栗村	日高市	川越市	川島町	坂戸市	鶴ヶ島市	毛呂山町	越生町	鳩山町
振興セ		南西部			南西部			南西部			西部	西部			川越比企	(東松山)	川越比企	(東松山)	川越比企	(東松山)	川越比企	(東松山)
保健所		朝霞			朝霞			朝霞			狭山				川越市	(東松山)	川越市	(東松山)	坂戸			

旧入間・新座地域(+α)の広域的まとめ  
行政支会の境界と現在の市町村境界とは少し異なる

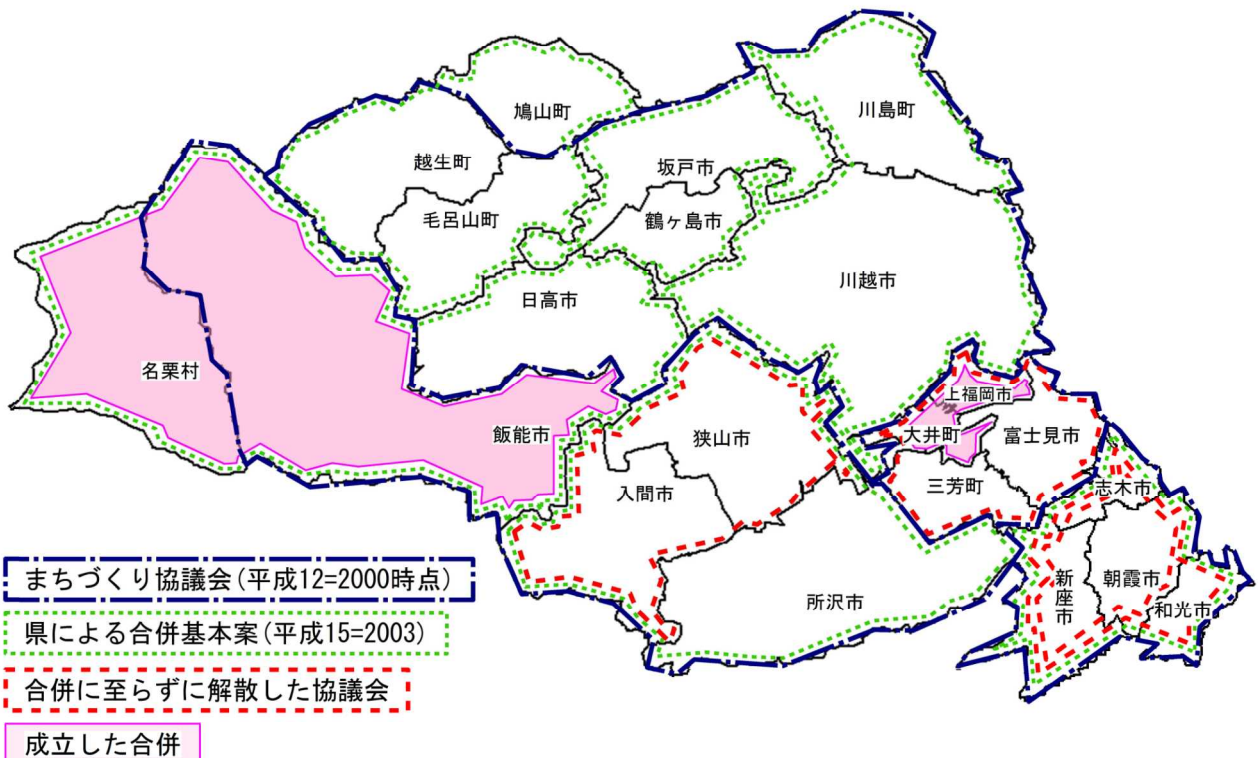
## 平成の合併、たいらならず

入間東部地区の4市町は、一部事務組合のほかにも、行政の部署ごとに事務研究会をつくりました。また、農業協同組合や青年会議所などの民間組織も、この地域を単位として設立・合併されました。こうして地域の一体感が育まれていきました。

平成2年(1990)、県のネットワークシティ構想を受けて「埼玉県首都近郊(入間東部)都市づくり協議会」が設立されました。そして「埼玉県首都近郊(入間東部)都市づくり構想 カルテットプラン」を策定しました。

平成7年(1995)、国は合併特例法を改正し、17年

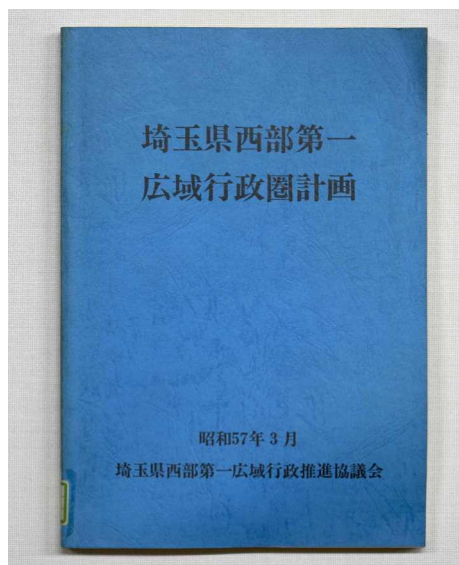
(2005)までに合併した市町村に財政的な優遇措置を用意しました。12年(2000)4月、東入間青年会議所を中心とした住民発議により、「富士見市・上福岡市・大井町・三芳町合併協議会」が設立されました。3年半にわたり協議し、新市名は「ふじみ野市」、庁舎は三芳町役場を使用することなどを決めました。「ふじみ野」は新興住宅地として良いイメージの地名でした。また、合併の成否は三芳町次第とされていました。住民投票の結果、富士見市は賛成、三芳町は反対、上福岡市と大井町は投票率不足で不成立でした。この結果、2市2町の合併協議会は解散しました。翌年、上福岡市から大井町へ合併を申し込み、17年(2005)に現在のふじみ野市が成立しました。



まちづくり協議会・平成の合併(平成12=2000～平成17=2005)

※ 入間東部地区は県合併案以前に協議会結成

新村建設計画書(コピー)と、次ページに掲載した計画書はむきだしで展示し、手にとってごらんいただけるようにした



県西部第一広域行政圏計画（1982年）  
武蔵野台地にかかる12市町でまとめた



カルテットプラン（1992年）  
入間東部地区4市町で都市づくり協議会を設置した。2005年解散



富士見市基本構想・総合計画（第1次～第5次。1972, 1982, 1991, 2002, 2011年）  
10年おきに基本構想・総合計画をまとめる。その時々々の未来像の違いが興味深い

# 地図の広場

展示室中央に、三村合併直後から平成初期までの地図を並べ、比べながらのぞき見る事が出来るようにした。地図の内容が分る大きさでは図示できないので、展示状況の記録写真を掲載した。



展示台を並べ、特製の木枠とアクリル板で仮製ケースにした。  
手前2枚が市制以後、奥の2枚が村制期と町制期

鶴瀬駅周辺航空写真(1959年)



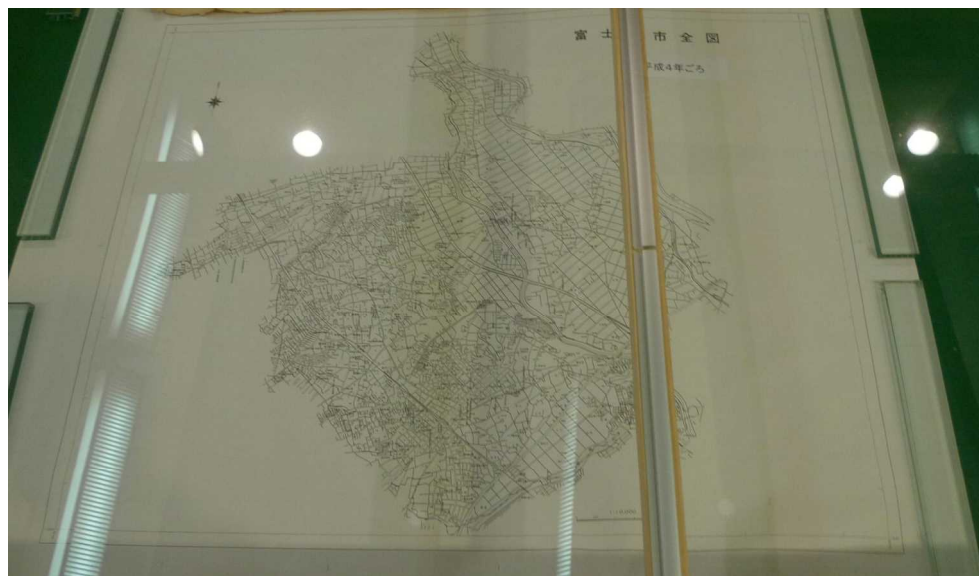
富士見村全図(1956年)



富士見町全図 (1965年)



市制施行記念富士見市全図 (1972年)



富士見市全図 (1992年頃)



---

平成 28 年(2016) 秋季企画展図録  
「富士見」還暦 -3 村合併から 60 年-  
令和 5 年 (2023) 9 月 30 日発行  
富士見市立難波田城資料館

---